

## 「技術士を目指して」

以下の記事は、特定非営利活動法人女性技術士の会ニュースレターより転載したものです。

Vol.7 2011/04/30

### 技術士をめざして

■ 増永佳乃さん（農業部門）「技術士を目指しながら、素敵な出会いがほほぽぽーン」

初めまして、この度原稿を書かせていただくことになりました増永と申します。拙い文章ですが、自己紹介を交えながら技術士資格について、記させていただきます。



増永佳乃さん

私は秋田県大潟村で生まれ育ちました。大潟村とは、1960年代に食糧増産を主目的として行われた干拓事業によって誕生した村です。干拓地の中でも大潟村は、生産機能だけでなく生活機能も含めて一体的に計画・建設された村であるという特長があります。このように面白い村なのですが、子供の頃は「村とか田舎だし、農家なんてダサくて…ウチめっちゃかっこ悪い!」と思っており、村を離れるため高校入学時に自ら望んで下宿生活を開始しました。しかし今までよりも人脈が広がった高校生活で、自分が育った大潟村がいかに特殊で面白い村かを気付かされ…いつのまにか農学部に属しておりました。さらに農学部でも大潟村の面白さを教わり、ついには農村計画を専攻するまでに至っております。5、6年で人生観が150°くらいは変わりました。

この“大潟村”は、私と多くの技術士を引き合わせてくれました。

最初の出会いは、私が技術士を目指すきっかけとなるものでした。その方は製図の講義の講師としていらっしゃる女性技術士の方<sup>注1)</sup>です。講義では技術士資格の存在を教えていただいたのですが、そのときは技術士資格よりも先生のパワフルさにただ圧倒されておりました。しかし先生のお父様が<sup>注2)</sup>大潟村の建設事業に関わっていたことから、ほほぽぽんとお話がはずみ、先生を通じて技術サロン<sup>注2)</sup>に参加させていただきました。そこでは先生と同じくらいエネルギッシュな女性技術士の方に出会うことが出来、その方たちへの憧れが技術士第一次試験受験に繋がったのです。

一次試験を農業部門で合格した後の第一次試験合格者祝賀会でも、多くの先輩技術士との出会いがありました。中でもめぐり合わせに感動した出会いは、私の祖父（入植者）を知るK先生と出会えたことです。不思議なことに、祖父が他界した日はまさにK先生と出会った夜でした。



大潟村の航空写真  
広大でまっすぐな道が自慢です

今になって思うと、大潟村に入植した祖父から「出会い」というプレゼントを貰ったような気がしています。

技術士を目指す者として今後どのように活動していくかはまだ想像できず、計画学について幅広く携わりたいと考えています。

これから先の人生がどうなるのか、今は就職活動中のため不安もありますが、それ以上に、どんなヒト・学問に巡り合えるのか…楽しみにしている自分が居ます。この余裕が吉と出るか凶と出るか。吉にすることが目標です。先輩技術士の皆様、よろしくお願い致します。

注1) NPO 女性技術士の会会員です。

注2) NPO 女性技術士の会が共催する、女子学生支援のための技術サロンです（本ニュースレターの活動報告参照）。  
（注釈はニュースレター編集担当者による）

## 技術士をめざして

□ 佐野愛美さん 「きっかけは技術サロン」（技術士補：応用理学部門）

皆様はじめまして、佐野愛美と申します。このたび寄稿の機会を頂きましたので私の自己紹介と、私の技術士ライフのスタートとなった技術サロンについて書かせて頂きます。

□メーカーの生産をサポートするエンジニア

昨年から自動車内外装のプラスチック製品メーカーに勤務しています。初めての配属先は生産技術課。生産全体の流れを通して「人・物・金」のマネジメントを行っています。

具体的には、生産工程で作業者がどのように生産を行うか、そのためにどんな設備や道具が必要か、そしていかに安く早く良い製品を作るかを企画から量産までのすべての場面で検討します。



自動車部品がメイン商品ですが  
住設、生活用品も開発しています。

既存の技術はもちろん日々進歩していく新しい技術を取り入れ、より安く・早く製品を生産できるよう日々研鑽を積んでいます。どの業務でも新しい挑戦(と失敗)の機会があるこの仕事を続け、4年後には社内初の女性技術士になれるよう成長できたらと思います。

□きっかけは技術サロン

さて、私の技術士の始まりは、WPETF 主催の技術サロンでした。大学の所属学科は JABEE 課程でしたが

技術士については実感がなく特に意識せず過ごしてしまい、就職が決まって卒業間際の1月に指導教員に技術サロンを紹介されて初めて女性技術士に出会いました。

女性の社会進出が困難だった時代に技術士になり、今も現役で活躍されている女性技術士の先輩方のお話に、就職を目前にした当時の私は非常に感動しました。そして漠然と技術者として働きたいと思っていただけの私の中で「技術士の資格ってとるのが大変そう…」から「私も技術士にならねば！」に変わったのでした。その後、サロンで知り合った先輩に指導技術士になって頂いて技術士補となり、今も毎回技術サロンに参加させて頂いています。

現在も技術サロンには参加させて頂いていますが、少しずつ仕事の経験を積むごとに先輩方のお話が身にしみるようになってきました。仕事が辛くても「技術士になってサロンの先輩みたいになりたい！」という目標があればこそ、入社時のモチベーションを持ち続けられています。次回の技術サロンも楽しみにしています！



佐野愛美さん

## 技術士をめざして

■ 永谷すみれさん 「～connecting the dots のほんとの意味～」(技術士補：森林部門)

このニュースレターを手にとって読んでらっしゃる方って、女性、男性、学生、社会人？これから就職活動をしていこう、またはその最中の方もいらっしゃるのでしょうか？もしあなたが、今何かに悩んでいたり苦しんでいたりとしたら、どんな言葉が聞きたいでしょう。

この記事を書いている約1週間前にスティーブ・ジョブズが亡くなりました。先日、ツイッター上で彼のハーバード大学での演説全文が回ってきたので試しに読んでみました。すると、これが物凄くいいのです。職場の最寄り駅から読み始め、嘘みたいかもしれませんが、読み終わるまで自分がどうやって電車を乗り換えたのか覚えていません。そのくらい集中して読んでいました。

「Connecting the dots」。何度かニュースでお聞きになったかと思いますが、彼がこの言葉に込めたほんとの意味ってご存知ですか？これは単に「人生の点と点はいずれ線になるものだから、今いる“点”を大切に生きよう」、とはちょっと違います。

演説の中で「Connecting the dots」を説明するために、両親に全く愛されない幼少期を過ごしたこと、大学を中退したこと、自身で作った会社を解雇されていたことなどを語っています。

中でも、「人生で最良の選択は大学を中退したことだと思っている」と述べています。「だって、本当に受けたい授業は聴講でも受けられるのだから」と。まさにこの時が、“右倣え”の生き方から、“人と違って自分自身の頭で”考え行動する生き方への転換期だったのでしょうか。

私たちは何かにつまずいたり上手くいかないなあ、という時って、上手くいっている周りの人たちと自分を比較して落ち込んだりしませんか？

ジョブズが「Connecting the dots」に込めた本当の意味って、おそらく、innovative で creative な人生は、きっと最初からゴールなんて見えていないものだし、「得られる結果が最初の段階で見えてなくちゃ、私は努力も勉強も出来ません」なんていう人には大きなチャンスや本当のご縁は巡って来ないということなんじゃないか、と思います。人生における点と点は、事後的にしか線として認識出来ないほど私たちは愚かである、ということ。

だから、今あなたがいる場所が、もし居心地が悪くて苦しいものであったとしても、その点が次にどの点につながり、今後どう発展していくのかは、今の段階では分り得ないのだから楽しく自由に未来を思い描いて行動しましょうよ。自分で自分を卑下したりせずに。

私は、なぜか造園を専攻し、なぜかインドネシアに留学して、1年の就職浪人時期があって、なぜか今の会社でお世話になっています。これからも心から楽しめる居場所を追求していきたいです。暗闇の中で苦しかった時に、「Connecting the dots」という言葉にもっと早く出会っていたらな、と思ったので書かせていただきました。



永谷すみれさん

## 技術士をめざして

■ 木下遥さん（技術士補：電気電子部門） 「寝ること」

「技術士をめざして」このタイトルから皆さん、「技術士になるためにはどうやって勉強するのか?」「何をがんばっているのか?」といった内容を思い浮かべられるのではないのでしょうか?“がんばる”ことは、もちろん、技術士になるために必要なことです。ですが、技術士試験は長丁場。そして、技術士になった後の、技術者人生も、さらに長丁場です。“がんばる”ことと同じくらい、“しっかり休む”ことも大切です。この記事では、私の体験を元に、寝ることの大切さについて書かせていただきたいと思います。



木下遥さん

申し遅れました。私は木下と申します。高専、大学、大学院と進学したのち電機メーカーに就職し、今年で入社2年目になります。技術士一次試験には高専時代に合格し、現在、技術士二次試験を受験中です。

学生時代は、ひたすら睡眠時間を切り詰めて、勉強と技術士会活動を行ってきました。布団で寝るのは、週に1度、土曜日のみ。その他の日は、布団で寝ると寝心地が良すぎて寝坊してしまうので、直接床で寝たり、椅子を並べた上で寝たりしていました。1週間、椅子に座ったまま寝たこともあります。その甲斐あって、多くの資格を取ることができ、学業でもそれなりに成果を挙げることができました。

しかし、社会人になって、それまで通りがんばろうとしたところ、何かがおかしい?気分が滅入る上、周りの人の話し声が異様に怖い。しかも、以前は眠れたはずなのに眠れない。寝るためにお酒を飲みだして、徐々に酒量が増えて、1晩でウォッカを1瓶空けるようになって・・・お医者さんに行くのが早かったので、大したことにはならなかったのですが、上司にも迷惑をかけてしまいました。上司は言っていました。「今までは、毎日ジムに通っていたとする。でも、仕事をするというのは、日中山登りしているようなもんなんや。今まで通りジムに通おうとしても、山登りした後じゃヘトヘトで、無理にがんばると身体を壊す。それと同じこと。」

これ、実はよくあることなのです。特に技術者の方々、勉強にも仕事にも熱心で、睡眠時間を削ってでも無理する方が多いです。睡眠時間が慢性的に不足すると、眠たくなるんです。だから、自分では「まだ大丈夫」と思うのでしょうか。無理を重ねて、自律神経を壊す人が、知り合いにもいっぱいいます。周りの技術者のかなりの人が、1度は経験されているようです。

その後、私は、上司に「毎日6時間以上寝ること」を約束させられました。以前のように時間が取れなくなり、今は、限られた時間のなかで、どう勉強と技術士会活動を行うか、悩んでいるところです。

技術者人生は長丁場。皆様、睡眠には気をつけて下さい。

## 技術士をめざして

■ 寄崎舞音さん（技術士補：情報工学部門） 「きっかけと技術士」

こんにちは、この度『技術士をめざして』に原稿を書かせて頂きます、寄崎舞音(よりさきまいね)と申します。私の技術士を知って、技術士を目指すきっかけは些細な事です。今回は私の自己紹介とその些細なきっかけなどを書かせて頂きたいと思います。よろしくお願いします。

○些細なきっかけ

私が技術士を知ったきっかけは、父が技術士であったからでした。お父さん子な私は、(職業も関係なしに!!)漠然と、技術士ってカッコいい!とっていました。大学で経営工学を専攻していた私が自分も技術士になりたいと思ったのは、(もちろん父の存在も大きかったのですが)専攻課程がJABEE課程に認定されていたからでした。技術士になるにはどうすれば良いのだろう、女性の技術士のキャリアパスって?と思いインターネット調べた事がきっかけで、女性技術士の会のサロンを知りました。

○女性技術士の会での出会い

女性技術士の会のサロンでは参加者の仕事や勉強への直向きさや、不安など様々な思いを知り、共感を覚える事が多くありました。またそれだけでなく、様々な職業や立場の方に出会った事で、自分の世界の小ささに気がつきました。技術士サロンに参加した事で、技術士になるための心構えだけでなく、人と出会う事で自分の世界を大きくしようと思うきっかけとなったのです。

○あこがれの女性

きっかけ  
出会い

技術士サロンをきっかけに、多くの働く女性、輝いている女性に出会いました。輝いている女性は、意志が強くしなやかというイメージを持っています。そのイメージの中に作家の向田邦子さんがいます。向田さんは技術士ではないのですが、向田さんの作品は人柄には輝くものを感じます。向田さんのエッセイで印象に残っている話があります。それは向田さんが、一人暮らしを始める際の家を探す話です。家探しの最中に、行き止まりの高台から東京オリンピックの開会式を偶然にも目撃し、なぜか涙が溢れてくる。この場面から他の作品にない、女性としての向田邦子像が見える気がします。

○技術士をめざして

様々なところで出会いの機会があります。出会いの1つ1つが未来の私をつくるのだと思います。オリンピックイヤーの今年、この『技術士をめざして』の原稿を書かせて頂く事になったのも、何かのきっかけだと思います。今は未熟な技術者ですが多くの出会い、学びから、輝く女性として、技術士としていつかスタートを切りたいと思っています。長々と書かせて頂きましたが、これからお会いした際には、みなさまどうぞよろしくお願いします!

未来

未来の私をつくる



## 技術士をめざして

■ 高橋 夏実さん（鳥取大学大学院農学研究科）「技術士を目指して、自分自身も成長を」

はじめまして、この度『技術士をめざして』に原稿を書かせていただきます、高橋夏実と申します。今回はこのような機会を頂きましたので私の自己紹介や技術士を目指すきっかけなどを書かせていただこうと思っております。よろしくお願いいたします。



### ■自己紹介と技術士を目指すきっかけ

私が技術士を目指すきっかけは、『人のために何かをしたい』という気持ちからでした。私は小学校低学年のとき、阪神大震災を経験したことで、周りの人からの支援の有難さを感じ、将来は自分も人のために何かしたいと思うようになりました。そのためには、何かに特化した人、つまり技術者として活躍したいという気持ちになりました。そういう気持ちを持ち続けている中、技術士の資格があることを知りました。このきっかけは、大学で専攻課程が JABEE 課程に認定されていたことでした。私は大学で農業土木を専攻しています。同じ専攻課程を卒業された先輩の中には、技術者として第一線で活躍している方もいます。その人たちの話を聞いている中で、自分も技術者として仕事がしたいという気持ちが大きくなりました。また、先輩方や先生から技術者としてやっていくには技術士の資格は持つべきだという話を聞きました。それから、どうすれば取得できるのかと悩んでいるときに、先生からの紹介で女性技術士の会のサロンを知りました。

### ■技術サロンに参加して

技術サロンの参加は私にとって刺激的なものでした。初め、私は大学卒業後、社会人として女性技術者を目指すことに対して不安があったため、同じ立場にある方たちがどんなことに悩み、どのように解決しているのか、また自分と違う専門で活躍されている方に会ってみたいという思いで参加しました。参加されている方の多くは、すでに第一線で活躍している方たちで、目標に向かって一步一步進んでおり、また、自分の意志がしっかり備わっている方々ばかりなので、見習わなくてはならない、まだまだ自分は甘い！と感じました。特に、仕事をしながらの資格取得に対する意欲、また、時間の使い方や勉強方法に関しては来年度から社会人になる私にとっては身になることが多くありました。またそれだけでなく、様々な仕事や立場の方に出会えたことで、人との出会いや関係を維持していくことの大切さを身に染みて感じ、これからの自分の世界を広げていくためにもこのスキルを伸ばしていこうと思いました。

### ■これから目指す技術士

私は、人との出会いは自分を成長させる糧だと思っています。様々な出会いを生み出すには積極的に自分から歩み寄ることが必要だと感じています。今回参加させて頂いた女性技術士の会では、自分の想いを貫いている方と出会えたことを嬉しく思っています。そして、自分の気持ちや目標などと向き合い、一步一步確実に進んでいくことの大切さを改めて感じる事ができました。また、『まだまだ自分自身も成長できる。頑張れ！』という自分に対する励ましにもなりました。多くの出会いを経験し、そこから様々なことを学ぶことで一人の技術士として誇れる女性になりたいと考えております。

この度は、長々と書かせて頂き、ありがとうございました。これからお会いした際には、みなさま、どうぞよろしくお願いいたします。

## 技術士をめざして

### ■ 篠りベカさん（機械部門）「異分野からのチャレンジ」

この投稿文への執筆依頼を頂きましてありがとうございます。稚拙な文章で恥ずかしいのですが、改めて自分自身の整理も含め、振り返ってみたいと思います。

私は大学時代に造園学、森林科学を専攻し、学生時代は地下足袋につなぎ、または登山靴に鎌というスタイルで過ごしてきました。縁あって、今のプラントメーカーに勤めることになったのですが、入社時は、会社のメインキーワード『環境保全』『バイオエタノールプラント』で自分の農学卒のキャリアも生かせると思っていたものの、実際は工学・物理・機械の世界でした。また、与えられた職務も営業事務だった為、正直、何のために高い学費を払いつつ大学まで行ったのかと不満に思う日々でした。

けれども友人や両親の助言を受けて、『人生に無駄な時はない。今までの人生で全く関係なかった機械という分野を知るのはこの時を逃したらもう二度とない。この場所ですらできないことがある。』と気持ちを切り替えました。

そのうち、機械のオーバーホールやメンテナンスの受注を受けるようになりました。すると、対応されるお客様は工学部出身ですが、機械図面の読み方も知らず機械の構造も把握できていなかった私は、ちょっとした問い合わせの内容すら理解できず、技術部門の方に丸投げするばかりでした。その度に、設計や工場の方に機械の『いろは』を教えて頂き、取引メーカーさんにも部品の作り方や構造を教えてもらい少しずつこの世界を知って行きました。

ちょうどその頃、還暦を迎えた技術者の方が無理をし過ぎて緊急手術をするという事態に直面したのです。私は、自分の無知さもその方に負荷をかけていたと気が付き、本格的に機械工学を勉強しようと決めました。そしていつしか技術士を目指そうという大きな目標が生まれました。

試験分野を森林や農業土木で受験すれば楽ですが、機械部門でなければ意味がありません。高校時代は生物・化学を専攻していたので、物理は中学までの知識しかありません。まず高校物理の教科書を購入し、また数学の微分積分もすっぱり抜けていたので、数Ⅱ・Bの復習を始めました。それから、熱力学、流体・構造力学、素材工学、システム等に取り組み、共通科目も怪しかったので、無機・有機化学、生物の遺伝などの復習も必要でした。平日は残業が多いので、夜の勉強は諦め、生活スタイルを変えて朝5時に起床し勉強、土日は10時間勉強しました。それでも足らず夏休みもすべて勉強にあてました。

何度も挫折して、数え切れないほどもう自分には無理だと諦めかけたのですが、大学生や他企業で研究職をしている友人が貴重な時間を割いて勉強を教えてくれ、家族もずっと励ましてくれました。1次試験に一回で合格できたのは、私を支えてくれた多くの方々のおかげです。合格通知を見たときは泣きながらお世話になった方々にご連絡しました。

これから2次試験ですが、技術士に向けて経験も知識も足りないものだらけです。今、旋盤講習を受講したり、中小企業を見学に行ったり、機械CADを勉強したり、手さぐりですが一生懸命この分野の世界を広げようとしています。試験には直接関係はないかもしれませんが、『人生に無駄なことはない』と、愚直にゆっくり歩みを進めています。

そんな中感じることがあります。旋盤講習中、私はとにかく怪我をしないようにと細心の注意を払い、一日が終わるとヘトヘトになっていました。私たちが提供する機械は、一歩間違えたら凶器となります。製作メーカーは、それを使うお客様の安全についてはそのご家族の幸せを確保しなければなりません。日進月歩の技術に遅れてはいけませんし、共に歩んでいてもまだ足りないと思います。意識を先行させ、ありとあらゆる想定外事項にも想像力を働かせてしかるべきだと感じています。

私も、そのように日本を根底から支えている技術者の一人になりたいです。よしっ、がんばるぞ！

## 技術士をめざして

■ 堀川 真加さん（建設部門） 「一步一步」

私は工学部土木工学科を卒業後、建設会社に入社しました。入社して5年間、工事現場でヘルメットと作業服を着て、いわゆる現場監督をしました。自分の計画通りに多くの作業員と資材を動かして構造物を創り上げていく、その魅力に取りつかれて寝る間も惜しんで働きました。その後内勤に異動になり、現在は事業の企画業務に携わっています。また私生活では、結婚し2人の子供にも恵まれました。その結果、仕事のスタイルは現場時代とは大きく変わりました。育児とのバランスを取りながら、というのが今の私の仕事スタイルです。

育児短時間勤務による時間制約で思うように仕事が進まなかったり、出張や外出の伴う業務に携われなかったり、子供の体調不良で不本意に欠勤せざるをえなかったり。自分の仕事能力が落ちたように感じて、正直やるせなく、悔しく、落ち込むときもあります。がむしゃらに仕事していた頃が懐かしい、時間の制約なく仕事している同僚が羨ましい、そう思うこともあります。でもそのたび、「自分で選んだ道、くさっちゃダメだ」と気合いを入れ、仕事へのモチベーションを何とか保ってきました。

技術士に対する憧れは大学生の頃から持っており、学生時代に技術士一次試験を受験しました。実務経験を積みそろそろ二次試験を目指して勉強しようとしていたちょうどその頃、妊娠出産が重なりました。仕事と育児をこなすのに精一杯で、資格の勉強はおろか自分の時間さえ全く取れない生活に、技術士への意欲はどんどん薄れていきました。

ちょうどそんなとき、会社の知人から「女性技術士の会 第16回技術サロン」の案内をもらいました。一度は目指したもののあきらめてしまった技術士への道。いまでは「技術士」と聞いただけである種の拒絶反応を示すほど遠い存在になってしまっており、サロンへ行こうかどうか悩みましたが、思い切って参加しました。というのも、知人からの案内に「当社初の女性技術士を目指して下さい」とコメントが添えられていたからです。「そうだ、この機会はいいいチャンスだ」と素直に前向きに捉えることができました。サロンでは技術士の先輩の皆さまがあたたかく迎えて下さり、楽しく歓談することができました。また「技術士を取らなきゃ損よ」「あなたなら取れるわよ」「大丈夫、頑張るって」などの激励の言葉を次々と掛けて頂き、単純な私はすっかりその気になってしまいました。というものの現実はその甘くはなく、子供ふたりを抱えての技術士取得への道は相当厳しいと自覚しています。でも、それでも前を向いていくこと、自分の力を信じること、挑戦し続けること、それが今の私にとって必要なことのように感じるのです。自分をしっかり見つめながら、小さくても一步一步前に進んでいこうと思います。

貴重な機会を頂き、ありがとうございました。



写真 現場で鍛えたおかげで2人の娘（合計25キロ）も持ち上げられます

## 技術士をめざして

### ■ 安達ふみのさん（建設部門）「日常を作る！」

はじめまして、安達ふみのと申します。私は現在、鉄道会社で軌道の保守業務に携わっています。いつか、技術士を取得し、技術士に値する知識や人間性を持ちたいと思い技術サロンに参加しました。

私は、公共物を通して人の役に立つ仕事がしたいと思い、苦手な物理と戦いながら、大学の土木学科である都市環境デザイン工学科に進み、鉄道会社へ就職しました。

入社一年目の業務は、おもに土木、軌道、建築のご意見（苦情）処理や予算の管理でした。ご意見は、夜間工事のご意見や、電車の通っている真上の方からのご意見がありました。また、入社した2011年が東日本大震災の直後の年であったため、地震による構造物の影響を危惧した声も多く寄せられました。

入社二年目より、軌道の現場管理の業務に携わっています。軌道の業務は、昼だけでなく夜も仕事を行います。おもに昼間の現場では、トンネル内で営業列車のすぐ脇を歩き、線路や構造物を点検します。夜間の現場では、昼間の点検や検査の結果により発見した補修が必要な箇所の工事を行います。夜間工事では、終電から始発の時間で全ての作業を安全に終了しないといけなないので、現場の空気は引き締まります。また制約されるのは時間だけではなく、私の保守区間は地下構造物であるため、空間も制約されているのです。レール交換の際、レールとトンネルの壁に挟まれる、といった地上であれば逃げ場があるため起こる可能性が低い事故も実際起きています。そのため、現場の安全管理や始発を走らせるための時間の管理を行っています。

入社するまでは公共物を通して人の役に立つには、ものを作ることが出発点だと思っていました。しかし、長く続くレール上に、巡回時に私の締めたボルトが一つ、二つと増えていくうちに、私は安全を作り出して、それが“レール”といった構造物、またその上を走る“電車”といった公共物を通して、当たり前の日常という安定・安全を作り出し、人の役に立っているのだ、と思えるようになりました。工期のある仕事と異なり、保線や保守土木の業務には終わりが見えません。入社一年目のときに、ご意見処理で電話対応をしたときのお客様の残念そうな声が今でも耳に焼き付いています。公共物があるがゆえの不便や不愉快を感じさせてしまっただけではない、と思いました。構造物の劣化を防ぐために、自分たちが勉強すべき技術はたくさんあると感じます。それだけでなく、劣化による不具合をお客様が感じないようにするためにも勉強すべきことはたくさんあるとも思います。

鉄道は様々な人が利用する構造物、公共物ですが、実際働いている方は男性が非常に多い世界です。ただでさえ難しい技術士を女性が目指せるのか、不安に思っていました。しかし、サロンに参加したことによって、女性だからといって線を引いているのは自分自身で、頑張るのも自分自身だと実感することができました。

私の仕事は線路という構造物相手ではありますが、その先にはそれを利用するたくさんの方がいるということをお忘れず、目の前の業務に携わりたいです。人に何百年かけて必要とされる構造物・公共物を作り出し、維持するために、学ぶ気持ちを忘れず、技術士の資格を取得できる知識を蓄えようと思います。

